

「子ども・若者育成プラン」令和3年度推進状況 調査票

目標	子ども若者プラン 事業番号	「子ども・若者育成プラン」の推進状況							「子ども・若者育成プラン」の 令和3年度事業を実施してきた中での現状・課題
		事業名	実施・関係主体等	事業内容	今後の方針	令和3年度実績	令和3年度 決算額		
目標1	1-1	男女共同参画推進事業	地域共生課	正しく性を理解し尊重しあうこと、性別にとらわれず、協力して家庭生活・社会生活を築くことについて啓発します。	事業の継続	男女共同参画に関する冊子やパンフレットを配架するとともに、男女共同参画週間に合わせて市役所ロビーにおいて啓発ポスター等の展示を行った。	240千円	男女共同参画週間に合わせ重点的に周知啓発を行っている。引き続き若い世代への働きかけを行う。	
目標1	1-2	人権啓発事業	地域共生課	次代を担う中学生が、人権尊重の重要性・必要性について理解を深め、豊かな人権感覚を身につけることを目的とし、「全国中学生人権作文コンテスト」を実施します。	事業の継続	法務局や人権擁護委員と共同で、市内中学校より人権作文を募集し、表彰した。10校361編の応募があった。	1,461千円	応募件数を近隣市と比較すると少ない傾向にあり、人権擁護委員会からも各中学校への協力依頼等について意見があり検討する。	
目標1	1-3	国際交流推進事業	文化課	国際交流や多文化共生について学ぶことを目的として啓発事業を行います。	事業継続	・市民通訳ボランティアによる通訳派遣を2件行った。 ・国際交流フェスティバルを実施し、13団体の参加があった。 ・医療通訳派遣システムの市内利用が15件あった。 ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴い、ホストタウン関連事業を行った。	4,927千円(見込み)	なし	
目標1	1-4	共生社会推進事業	地域共生課	共生の意識づくりなどを通じて社会との関わりの中で何らかの障害に直面している人をはじめ、すべての市民が安心して自分らしく暮らすことのできる共生社会の実現を目指します。	事業の継続	地域共生社会推進全国サミットを開催したほか、若者チャレンジ事業を実施した。	25,866千円		
目標1	1-5	相談事業	地域共生課	「わたしの提案(子ども版)」を全市立小・中学校、全子ども会館・子どもの家及び青少年会館に設置し、子どもの夢や希望を市政に生かすことを目指します。	事業の継続	わたしの提案(子ども版)受付件数 5件	6392千円	長年同じスタイルで設置しつづけ、年間2～6通程度の提案が寄せられている横倍の状況であり、小中学生からの意見を取り入れる方法を検討中	
目標1	1-6 3-5重複掲載	各種スポーツ行事事業	スポーツ課	多様な海の楽しみ方の提案、豊かな自然の活用、マリンスポーツの普及促進を図るイベント等の開催を通じ、鎌倉の海の魅力を伝えます。	新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、マリンスポーツの体験等を通して普及に努めていく。	マリンスポーツ等を中心とした鎌倉の海の魅力を周知するとともに、豊かな自然や地域の魅力を伝えることを目的とした動画の作成を行った。	1,331千円	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、体験教室が開催できなかった。今後の体験教室の開催方法について検討が必要である。	
目標1	1-7 3-6重複掲載	緑化啓発事業	みどり公園課	市民との連携推進の一環として、豊かな丘陵の樹林地を管理する緑のレンジャーなどの育成します。	引き続き育成を図る。	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う本市財政の状況を鑑みて、緑の学校及び緑のレンジャージュニア講座の開催を中止、緑のレンジャーシニア講座のみを実施した。	1,650千円		
目標2	2-1	子育て支援事業(常設冒険遊び場)	こども支援課	未就学児とその保護者、小中学生を対象に緑あふれる鎌倉の特性を生かした「遊び」の機会を提供し、自然の中での遊びを展開することで、子どもたちの育ちを支援を行います。	事業の継続	★来館者数 7,021人 ★イベント実施状況 ・子育て支援イベント19回 参加人数111人 ・出張型冒険遊び場2回 参加人数46人	6,176千円		
目標2	2-2	放課後かまくらっ子推進事業	青少年課	放課後かまくらっ子に中・高校生及び大学生等の参画機会をつくり、多世代交流の場として広く地域づくりの拠点になるよう推進します。	継続	・鎌倉でらこや及び鎌倉市ジュニアリーダーズクラブにおける、放課後かまくらっ子への大学生・中学生の参加。 ・中高生サポーター実施要領の作成。 ・放課後かまくらっ子推進部会において、中高生参画について協議。 ・放課後かまくらっ子推進参与と中高生参画について協議。	246千円	大学生の参画は鎌倉でらこやと連携の元、実施しているが、中高生の参画は、検討を始めた段階である。 中高生サポーター要領に基づき、全施設で放課後かまくらっ子に中高生が関わられるよう、協議を進めていく。	
目標2	2-3	育成事業	青少年課	市内在住・在学の中学生から22歳までの青少年が自主的に組織しているジュニアリーダーズクラブの支援育成を行います。	継続	■会員：19名(中学生2名、高校生6名、大学生11名) ■活動内容 定例会：10回実施 自主研修：ゲーム研修(オンライン)、火おこし研修、春季研修 かまくらっ子プログラム：ゲーム(オンライン：腰越・御成)	35千円	新型コロナウイルス感染症拡大を受け活動自粛したことに伴い、新規会員がいない状態にあるため、構成員の見直しや、新規会員の募集を行う必要がある。	
目標2	2-4	育成事業	青少年課	当事者が企画、運営する「成人のつどい」等のイベントを支援します。高等学校等と連携し、キャリア教育につながる機会の提供をします。	継続	■実行委員：14名 実行委員会実施：計9回実施 ■2022年1月10日(月)開催 二部制 午前：550名／午後621名 計1,171名出席(73.3%)	1,889千円	実行委員の意見がより反映される式典となるように支援していきたい。	
目標2	2-5	障害者社会参加促進事業	障害福祉課	聴覚障害者等の社会参加を推進するため、手話通訳者等を派遣し、聴覚障害者等の情報保障を図ります。	事業の継続	手話通訳者派遣回数：123回 要約筆記者派遣回数：51回	842千円	特になし	
				手話講習会入門、基礎、中級、上級講座等を開催することで、聴覚障害者等とのコミュニケーションの支援を推進します。	事業の継続	入門・基礎 40回 中級 20回 上級 10回	1,772千円	特になし	
				障害者の社会参加を推進するため、自ら運転する自動車を改造する場合に自動車改造費の助成を行います。	事業の継続	利用者数：3人(うち20代1人)	300千円	特になし	
				在宅の重度障害者の社会参加を促進することを目的とし、福祉タクシー利用券・福祉自動車燃料費助成券等を交付し利用料等の助成を行います。	事業の継続	・タクシー利用券 支給人数 1,127人 ・自動車燃料利用券 支給人数 765人 ・福祉有償運送利用券 支給人数 12人	・タクシー利用券 決算額：15,798千円 ・自動車燃料利用券 決算額：12,075千円 ・福祉有償運送利用券 決算額：91千円	特になし	

目標2	2-6	障害者雇用対策事業	障害福祉課	ハローワークとの連携や障害者二千人雇用センターを運営するとともに、障害者就職面接会を行い、障害者雇用二千人を目指します。	事業の継続	就労者数 1,793名(令和4年1月末時点) 就職面接会1回開催(ハローワーク藤沢と共催)	47,104千円(見込) (うち障害者二千人雇用センター運営委託費 28,934千円)	市民への周知が課題。広報や SNS等を活用し、当事業について引き続き周知活動を行う。
				障害者雇用を推進するため、庁内から依頼された事務作業を行うワークステーションを運営します。	事業の継続	ワークステーション業務受注件数483件(令和4年2月末時点)	上記に含む	一般企業等への就労者が少ないことが課題。障害者二千人雇用センターとの定期的な情報交換を継続し、3年程度をめどに一般企業等への就労の実現を目指す。
目標2	2-7	保健衛生運営事業	市民健康課	・自殺に対する理解を深め、身近な人のゲートキーパーとなることのできる人材の育成します。	継続	ゲートキーパー養成講座:9回 延233人	0円	コロナ禍が続く中、心身の不調を訴える人が増加していると言われている。様々な問題を抱えている人に気づき、つなげる役割を担うゲートキーパーの養成を継続していく必要がある。
				・いのちの大切さを知り、自他を尊重するところについて知識を得る機会を提供します。	継続	・いのちの教室:小学校7校、中学校5校、フリー スクール1校 計13校 延1,023人 ・自殺対策講演会 1回 55人 ・ライフプラン講演会 2回 195人	報償費 180千円 30千円(いのちの教室) 50千円(自殺対策講演会) 100千円(ライフプラン講演会)	いのちの教室については、事前に学校と打合せをし、その学年や学級の状況を踏まえた内容としている。学校との連携が不可欠である。
目標2	2-8	各種スポーツ行事事業	スポーツ課	ジュニアアスリート育成するため、トップアスリートやプロ選手、協会指導者による将来のオリンピック等の発掘・育成や競技力向上のための教室を開催します。	新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、ジュニアアスリート育成するための教室開催を継続していく。	新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑みて、実施を見送った事業もあるが、本市におけるジュニア世代の競技レベルアップを目的として、各種目のトップアスリート等からの技術指導を受ける機会を提供した。	745千円	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、実施できなかった教室があった。今後の開催方法について関係団体も交えて検討が必要である。
				市民スポーツ行事、鎌倉演武会、市町村対抗駅伝大会等業務等の競技スポーツを推進することで、青少年のスポーツイベントへの参加を促します。	新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、競技スポーツを推進するためのイベント開催を継続していく。	新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑みて、実施を見送った事業もあるが、少年及び一般市民向けのイベントを実施することにより、市民にスポーツへの参加の機会を提供して競技層の拡大を図った。	909千円	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、実施できなかったイベントがあった。今後の開催方法について関係団体も交えて検討が必要である。
目標2	2-9	生涯学習センター推進事業	生涯学習課	多様な学習ニーズに対応するため、子どもや保護者等を対象に、幅広い学習情報の収集と提供や、講座・イベントを開催します。	ICTの活用を拡充していく。	情報誌の発行及びインターネットを活用した情報提供を行った。	4,822千円	・インターネットを活用した情報提供の機会が少ない。 ・子どもや保護者、若年世代に向けた講座が少ない。
目標2	2-10	生涯学習センター管理運営事業	生涯学習課	子どもや親子の学習機会の支援のため、住居に近い施設で学習できるよう、学校学習施設を含む生涯学習施設の管理・運営に努めます。	継続して市民に提供し、学習環境の整備に努めながら新たな場所を検討していく。	御成小学校、今泉小学校、手広中学校において学校開放を継続。鎌倉生涯学習センターにおいて青少年課所管事業の「わかたま」に場所の提供を行った。	133,724千円	実施できる場所の確保が限られている。
目標2	2-11	相談事業	教育センター	・不登校など主に学校生活になじめない児童生徒に対して興味や関心等にに応じたプログラムを提供します。	事業の継続	かまくらULTLAプログラムを実施 「森のプログラム」(3日間)参加者15名 「海のプログラム」(3日間)参加者15名 総参加者数25名	4,994千円	
目標3	3-1	川喜多映画記念館等管理運営事業	文化課	川喜多夫妻の功績に触れながら、映画の資料及び鎌倉の風情を楽しむことにより、文化意識の醸成を図ります。	事業継続	・年4回の企画展において貴重な映画関連資料を展示し、古典的名作から近年の話題作まで多彩な映画を上映した。 ・子どもたちが映画の知識を楽しく体験しながら学べるよう、常設展示にて映像玩具を設置した。	36,020千円(見込み)	なし
目標3	3-2	鎌木清方記念美術館管理運営事業	文化課	市民の教育、学術及び文化芸術の発展に資するため、鎌木清方の業績を後世に伝えます。	事業継続	・近代日本画の巨匠・鎌木清方の旧居跡に建つ和風建築の美術館で、清らかで優美な女性の姿や、市井の人々の生活を主題にした作品等を展示しており、年3回の特別展及び年6回の企画展を実施した。 ・夏休みと春休みに年2回、こども参加プログラムを実施した。	48,089千円(見込み)	なし
目標3	3-3	文学館管理運営事業	文化課	市民の観覧や教養及び調査・研究に資するため、鎌倉にゆかりのある文学及び文学者の資料の収集、保存、展示します。	事業継続	・年3回の特別展及び年1回の収蔵品展において、鎌倉ゆかりの文学及び文学者についての文学資料の展示・紹介をしています。 ・校外学習や学生インターンシップ等の受入れを行った。 ・年1回、鎌倉文学館こども文学賞の募集・表彰を行った。	75,773千円(見込み)	なし
目標3	3-4	文化行政推進事業	文化課	鎌倉の文化の質的向上及び豊かな市民生活の創造を図るため、文化事業を行うとともに市民の文化活動を支援します。	事業継続	・鎌倉市民文化祭は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して開催した。 ・市民団体等が実施する文化関連事業に対し、共催や後援をするなどし、支援を行った。 ・市内小中学校を対象に鎌倉にゆかりのある文化人・芸術家等による出前授業を計2校に対して実施した。 ・市内小中学校の生徒を対象に日本の伝統的な芸術文化である「能」に間近で触れる機会を提供するため、稽古～発表会までを体験できる「鎌倉こども能」を実施した。	5,407千円(見込み)	なし
目標3	3-5 1-6重複掲載	各種スポーツ行事事業	スポーツ課	多様な海の楽しみ方の提案、豊かな自然の活用、マリンスポーツの普及促進を図るイベント等の開催を通じ、鎌倉の海の魅力を伝えます。	新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、マリンスポーツの体験等を通して普及に努めていく。	マリンスポーツ等を中心とした鎌倉の海の魅力を周知するとともに、豊かな自然や地域の魅力を伝えることを目的とした動画の作成を行った。	1,331千円	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、体験教室が開催できなかった。今後の体験教室の開催方法について検討が必要である。
目標3	3-6 1-7重複掲載	緑化啓発事業	みどり公園課	市民との連携推進の一環として、豊かな丘陵の樹林地を管理する緑のレンジャーなどの育成します。	引き続き育成を図る。	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う本市財政の状況を鑑みて、緑の学校及び緑のレンジャージュニア講座の開催を中止、緑のレンジャーシニア講座のみを実施した。	1-7に含む	

目標3	3-7	教育情報事業	教育センター	鎌倉への理解を深めるため、中学校社会科学習資料「私たちの鎌倉」、中学校理科学習資料「鎌倉の自然」を刊行し、対象生徒への配付をします。	事業の継続 (デジタル化)	中学校社会科学習資料「私たちの鎌倉」の改訂作業を行い、デジタル化。児童生徒が持つタブレット端末上で閲覧可能にした。	0千円	
				市民の鎌倉の歴史風土の理解を図るため、「かまくら子ども風土記」を販売することにより、郷土学習の充実を図ります。	事業の継続	行政資料コーナー(24冊)、市内各図書館(17冊)、教育センター(21冊)、市内店舗2店(178冊)にて販売。	456千円(歳入) 68千円(歳出) ※歳出は販売委託料	
目標3	3-8	文化財公開活用事業	文化財課	市内の発掘調査で出土した出土品の展示、鎌倉を特徴づける史跡等の公開展示、地域で育まれ代々引き継がれてきた郷土芸能を知る場を提供などを行い、郷土の歴史・文化に対する意識を育みます。	事業の継続	市内の小学校2校に対して、出土品貸出セットを貸し出し、内1校に対して、職員を派遣して講義を行い、郷土の歴史・文化に対する意識を促す取り組みを行った。鎌倉市指定史跡一箇所(瓜ヶ谷やぐら群)、市指定天然記念物3箇所(浄智寺のコウヤマキ、光則寺のカイドウ、成福寺のビャクシン)に標柱を設置した。遺跡調査速報展や郷土芸能大会などの行事は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しなかった。	436千円	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、例年実施していた啓発事業が実施できなかった。ある程度の人が集まることが前提となる事業については、実施に向けて慎重に検討を進めていく必要がある。
目標3	3-9	鎌倉国宝館管理運営事業	生涯学習課	鎌倉ゆかりの文化財などの展示を通じて、鎌倉の歴史や文化に関する学びの場を提供し、歴史学習意欲の向上に努める。学校観覧、博物館実習やインターン(大学生、高校生)の受入れなどを行い、鎌倉の歴史的・文化的遺産財を未来に引継ぐ意識を育みます。	より魅力的な展示を企画開催するとともに、教育普及活動のさらなる充実を図る。	・学校対応(特別解説 18校、延べ417人) ・4回の特別展と3回の特集展示を開催。 ・学芸員資格取得を目指す大学生対象に博物館実習を実施(4名) ・インターンシップ実習(大学生1名、高校生6名)	47,943千円	新型コロナウイルス感染症対策を講じ、特別展等の観覧を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、子供向けのイベント開催やハンズオン展示(仏像模型)が実施できなかった。
目標3	3-10	鎌倉歴史文化交流館管理運営事業	生涯学習課	鎌倉から出土した文化財などの展示を通じて、鎌倉の歴史や文化に関する学びの場を提供し、歴史学習意欲の向上に努める。学校観覧やインターン(大学生、高校生)の受入れなどを行い、鎌倉の歴史的・文化的遺産財を未来に引継ぐ意識を育みます。	より魅力的な展示を企画開催するとともに、教育普及活動のさらなる充実を図る。	・学校対応(特別解説 13校、延べ417人) ・発掘調査速報展を含む4回の企画展を開催。 ・インターンシップ実習(大学生1名) ・学芸員体験学習(小学生2名)	43,125千円	新型コロナウイルス感染症対策を講じ、特別展等の観覧を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、甲冑の着装体験や手で文化財に触れることができるハンズオン展示が実施できなかった。
目標4	4-1	育成事業	青少年課	時代に応じた子ども・若者の理解を図るため、青少年指導員等の青少年育成団体との連携の強化や研修会を実施します。	継続	■鎌倉市青少年指導員連絡協議会 ・特別街頭指導実施(鎌倉・大船駅周辺) ・かまくらっ子プログラム ・デイキャンプ→新型コロナ感染防止のため中止 ■鎌倉市青少年協会 ・ガラクタ音楽会→新型コロナ感染防止のため中止	1,176千円	各委員会のメンバーが固定され、取り組む行事が毎年同じ内容になる傾向にあるため、時代に応じた子ども・若者の理解に繋がっているか検討が必要である。
目標4	4-2	社会教育運営事業	教育総務課	家庭・地域の教育力を高めるために、子育てや教育に関すること等、様々なテーマの講演会を開催します。	実施に向けて検討していく。	実績なし	0千円	新型コロナウイルス感染症拡大のため、事業を中止。
目標5	5-1	人権啓発事業	地域共生課	子どもの権利条約の批准国であり、子どもの権利の尊重の重要性を認識した施策を実施します。	事業の継続	人権擁護委員による街頭啓発活動や人権メッセージパネル展により、啓発を行った。	1-2に含む	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、「街頭啓発」や園児への啓発活動が開催できなかった。コロナ禍での啓発について検討する。
				「いじめ」「虐待」「学校のトラブル」で悩んでいる子どもへ相談機関を紹介するカードを配布します。	事業の継続	子どもの相談カードを作成し、市内小中学校や相談機関等を通じて配布した。配布総数17,850枚		児童・生徒への配付については引き続き実施するとともに、関係機関との迅速・円滑な連携について強化を図る。
目標5	5-2	労働環境対策事業	商工課	不登校・ひきこもり・ニートなど自立に悩む若者の家族向けセミナー、相談を実施します。	事業の継続	セミナー参加者 のべ27組 相談会参加者 のべ17組	495千円	令和2年度から始めたオンラインでの参加者が増えており、コロナ禍に対応できたと思える。しかし、問い合わせの中には、自立に悩んでいるもののセミナーや相談会に参加するまでもないと家族が判断し、参加に至らないケースもあるようなので、少しでも不安のある方々に参加してもらおうか、工夫が必要である。
目標5	5-3	育成事業	青少年課	鎌倉・湘南地区高等学校校長会との共催により、「青少年の健全育成推進街頭キャンペーン」を通じて薬物乱用防止等の啓発を中・高校生を中心に関係機関とともに実施します。	継続	未実施(新型コロナ感染拡大防止のため)	0円	
目標5	5-4	包括的支援体制推進事業	地域共生課 高齢者いきいき課	相談支援包括化推進業務を実施し、関係する支援機関の役割分担や支援の方向性を整理することで、複合的な課題を抱える世帯の課題解決を図ります。	事業の継続	(地域共生課)相談支援包括化推進業務委託契約を締結し、多機関協働及び参加支援について取り組んだ。 (高齢者いきいき課)本庁舎の所在地を担当地域とする地域包括支援センター鎌倉市社会福祉協議会を本庁舎1階3番窓口を設置した。	9,581千円(地域共生課) 4,870千円(高齢者いきいき課)	相談傾向や市民ニーズを共有及び分析し、今後の支援センターの役割や方向性について検証していく必要がある。(高齢者いきいき課分についてのみ記載)
目標5	5-5	消費者自立支援事業	地域共生課	消費生活に関する苦情相談を受け付け、助言・あっせんなどを通じ、消費者被害の回復に努めます。	事業の継続	鎌倉市消費者生活センターにて消費生活相談員が事情を詳しく伺い、助言、あっせんを行った。	795千円	令和4年度から成年年齢が18歳に引き下がるため、「未成年者取消」が行使できない18歳及び19歳のトラブル増加が懸念される。啓発周知等、積極的に行っていく。
				消費生活の基礎知識の普及や、消費者被害の未然防止に向けた情報の提供など、啓発活動を積極的に行います。	事業の継続	「暮らしのニュース」「生活の情報」の作成及び配布、広報かまくらの掲載や地下道ギャラリーでの消費生活展を行った。		新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、「夏休み子ども教室」が開催できなかった。コロナ禍での啓発について検討する。
目標5	5-6	民生委員児童委員活動推進事業	生活福祉課	主任児童委員を中心に、地域で気になる家庭への見守りや、子育てサロンの開催、身近な相談相手として各種行政機関等へのパイプ役を担います。	事業の継続	主任児童委員連絡会議 8回開催 ・主任児童員連絡会研修会 1回開催 ・各地域での子育てサロン 計50回開催	報酬 32,972千円 補助金 2,816千円	新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、安全面を考慮した上で見守り活動や子育てサロンを実施。今後もオンラインでのサロン開催等を検討し、社会情勢に合わせた見守りや身近な相談相手として活動をしていく。

目標5	5-7	ひきこもり対策推進事業	生活福祉課	ひきこもり状態にある方とその家族に対する相談・支援を行います。	事業の継続	・ひきこもり支援ガイドの内容を更新し、発行。 ・ひきこもりに関する知識向上を図るために各種研修会に参加。 ・相談・支援実績 452件 ・講演会 1回開催	報償費 30千円 旅費 25千円 需用費 59千円	ひきこもり支援ガイドや広報かまくら、市ホームページでの周知により事業の認知度が高まっている。 複合的な問題を抱える場合もあるため、今後も関係部署との連携を密に取りながら支援をしていく。
目標5	5-8	障害者福祉運営事業	障害福祉課	障害者等へのサービス利用調整等必要な支援や権利擁護のための援助など相談支援事業を行います。	事業の継続	★指定・特定相談支援事業所16か所 ★委託相談支援事業所 3か所	66,882千円 (ラファエル会、I型)	・複合、困難ケースの増加等による委託相談支援事業所における負担感の増。 ・障害福祉サービス利用者増加に対する相談支援専門員数の不足。 ・セルフプランの増加に伴い、障害福祉サービスの適正利用に向けた取組についての検討が必要。
				在宅の障害者の日中活動の場の確保、障害の特性に応じた作業の場の提供及び地域社会との交流の促進により障害者の自立を支援する地域活動支援センター事業を実施します。	事業の継続	★地域活動支援センター運営 11か所	138,158千円	障害者の日中活動の場を確保できるよう、生産活動の機会の提供や地域住民に対して障害への理解・啓発を行う必要がある。
				基幹相談支援センター事業や成年後見センター事業を実施します。	事業の継続	★基幹相談支援センター運営 ★成年後見センター運営(高齢者いきいき課と合同)	24,158千円	相談支援に関する様々な課題等に対応するための機能等の拡充が必要。
				失語症等成人中途言語障害者への支援や障害者団体等への支援を行います。	事業の継続	失語症者支援を知る講座受講者:20人	404千円	特になし
				公的年金給付の要件を制度上満たせない在日外国人の障害者に給付金を支給します。	事業の継続	対象者1人	312千円	特になし
目標5	5-9	障害者福祉サービス事業	障害福祉課	障害者が障害福祉サービスを利用した場合に介護給付費等の支給を行います。	事業の継続	★利用者数609人 児童福祉法サービス:433人 総合支援法サービス:64人 地域生活支援事業:112人	児童福祉法サービス 決算値: 523,606千円 その他サービスについては児童分のみの算定不可。	特になし
				身体機能を補い日常生活を容易にするために障害者等の補装具・日常生活用具の給付を行います。	事業の継続	補装具18歳以上:224件 補装具18歳未満:147件 日生具18歳以上:2378件 日生具18歳未満:142件	補装具18歳以上: 20,330千円 補装具18歳未満: 14,657千円 日生具18歳以上: 24,220千円 日生具18歳未満: 1,726千円	特になし
				障害の内容に合わせた住宅設備改修の際に重度障害者住宅設備改造費の助成を行います。	事業の継続	利用者数:6名(うち30歳以下の者無し)	1,951千円	補助金額増額傾向に対する制度維持のための検討が必要。
				自宅の浴槽での入浴が不可能な身体障害者に訪問入浴サービスを実施します。	事業の継続	利用者数:12人 利用回数:入浴382回 清拭1回 キャンセル1回	5,288千円	特になし
				グループホーム入居者へ家賃の助成を行います。	事業の継続	対象者数:150人	11,700千円(未確定)	特になし
				障害者総合支援法の補装具給付費支援対象外の軽・中等度の難聴の児童に対し、補聴器購入費の一部の助成を行います。	事業の継続	利用者数:2人 内訳:骨導式補聴器カチューシャ型1個、イヤモールド2個	179千円	特になし
目標5	5-10	成人保健事業	市民健康課	こころの健康づくりに関する相談を行います。	継続	相談実績:7件(自殺企図、生きるのがつらい等) 自殺対策相談窓口パンフレット「かまくらサポートリスト」の増刷 検索関連広告掲載事業(「死にたい」等のgoogle検索をした人に相談先窓口の広告を自動掲載)	印刷製本費 89千円 委託料 90千円	多問題を抱えた相談がはいることから、日頃から関係機関との連携を密にしておくことが重要である。
目標5	5-11	相談室事業	教育センター	主に学齢期から青少年を対象に教育や生活上のさまざまな諸問題の相談を電話や来室、訪問、心理検査、学校巡回などにより対応します。 不登校児童生徒を支援するための教育支援教室「ひだまり」を運営します。	事業の継続	相談室相談人数(のべ539名) いじめ相談ダイヤル(21件) webでのいじめ相談(1件) 子ども相談SOS相談フォーム(15件) スクールカウンセラー相談件数(のべ2252件) ひだまり利用状況(登録者24名) 教育相談員小学校訪問時相談件数(のべ5061件) 心理検査(18件)	2,044千円	